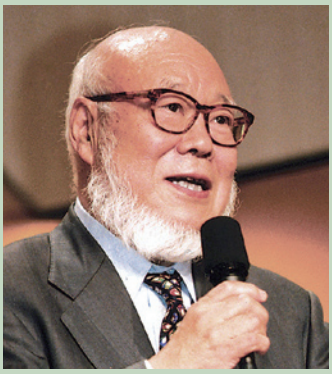
有限責任中間法人
日本統合医療学会　会報
THE SOCIETY FOR INTEGRATIVE MEDICINE JAPAN

IMJ News

第3号

2008年9月25日 発行

有限責任中間法人　日本統合医療学会
〒113-0023　東京都文京区向丘1-6-2
TEL：03-3812-5030　FAX：03-3812-5167
URL：http://www.imj.or.jp
E-mail：info@imj.or.jp



“統合医療の品格と認定資格”

有限責任中間法人日本統合医療学会（IMJ）
理事長　渥美 和彦

国家の品格、企業の品格、大学の品格とつづいて女性の品格と、品格の問題が社会の話題となるようになった。

“ 品格 ”とは良い響きをもつ言葉である。わが国古来の倫理の基本ともいうべきものであり、最近の乱れたわが国に快い警鐘を鳴らすものでもある。

偽装建築、偽装食品、有毒食品、振込詐欺と低俗な社会問題が頻発しているが、この現象の根本は、社会における情報化の一つの流れにあると考えて良い。企業あるいは社会のシステムにおいて、大型コンピュータによる中央管理からパソコンあるいは携帯を介しての個人の情報処理システムに大きく転換したからである。中枢からの一括的な総合管理が不可能になったからである。

現代のように、無責任な情報が、発信人不明のまま氾濫する事態になることを、インターネット時代を築いた技術者あるいは関連企業は予想したであろうか。ここに市場主義中心の悪しき一面があると考えられる。

統合医療も同様なことが考えられるのではなかろうか。西洋近代医療が頂点に達したために統合医療が展開したのであるが、その過程において、混乱が生じるのはやむをえないともいえる。統合医療の名前の下に、患者を不正に集めたり、企業商品を誇大に宣伝している輩も少なからず存在する。

統合医療という偉業を展開するためには優秀な、志の高い人材を教育し、研修し、社会に送り出す必要がある。そのためにも、充実した教育とともに、さらに自己を規制する倫理規定が必要である。

統合医療学会は、統合医療を医療の理想の到達点の一つに考えて志を同じくする人を結集するために、認定資格の制度を採用することになったのである。将来の専門指導医・師・士の教育・輩出を願い、多くの皆様の参加を望んでいる。

目　次

● 巻頭言 …… p.1
● ご挨拶 …… p.2-3
● 厚労省に提言 …… p.4
● 健食シンポジウム …… p.5
● 医・師・士セミナー …… p.6-7
● 九州大会 …… p.8-9

IMJ ニュース
第　3　号
• 発行所 •
有限責任中間法人
日本統合医療学会
• 発行者 •
渥　美　和　彦
• 編集代表者 •
佐　藤　信　紘

「長寿」は日本のキラーコンテンツ

厚生労働副大臣　鴨下　一郎

このたび、厚生労働副大臣を拝命いたしました鴨下一郎です。昨今の年金や医療など社会保障制度や厚生労働行政に対する不安、不満をしっかりと解消し、国民の皆様が安全、安心できる社会を実現していくことが私に与えられた使命であると考え、精一杯尽力していく所存です。

今回、機会を頂戴いたしましたので、副大臣就任のご報告とともに、我が国の「長寿」についてご紹介させていただきたいと思います。

平成19年簡易生命表によれば、日本人の平均寿命は男性が79.19歳、女性は85.99歳に達し、諸外国と比較すると男性は世界3位、女性は22年連続の世界1位となっています。特に、女性は、諸外国の平均寿命の年次推移をグラフにしてみると、昭和60年ごろから諸外国を置き去りにする感じで伸びていることがわかります。

一方、WHOの「世界保健報告2000」によれば、我が国の保健医療の水準は、保健水準の到達度とその均一性、人権の尊重や利用者への応対の達成度とその均一性、費用負担の公平性の観点から評価して総合で「世界1位」と評されております。

この我が国の保健医療制度が「長寿」を支える基盤となっているのは確かだと思いますが、これに加え、我が国の和食の伝統に基づく栄養バランスの整った食習慣、また多くの温泉に恵まれていることによる古くからの湯治の伝統、湯船に浸かって入浴する習慣など、今、諸外国においても我が国の「長寿」につながると考えられる生活習慣（ライフスタイル）に学ぼうとする動きが起こっていると聞いております。

現在、厚生労働省では「21世紀における国民健康づくり運動（健康日本21）」として、「生活習慣病」の予防に重点を置きながら、我が国の「長寿」の生活習慣を今後とも確保しつつ、さらに積極的な健康づくりへの取り組みを推進しています。

将来とも安心できる社会保障制度づくりと併せて、我が国が世界に誇るキラーコンテンツとして「長寿」を発信すべく一生懸命頑張りたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

＊キラーコンテンツ：あるサービスやコンピュータの機種を大きく普及させるきっかけとなる、特別に人気の高いサービスや情報のこと。（IT用語辞典より）

統合医療の発展に期待する

厚生労働副大臣　渡辺　孝男

本年９月６日、厚生労働副大臣として北京パラリンピック開会式に出席した。その折に、日本が支援を行ってきた「中日友好病院」と「中国障害者リハビリテーション研究センター」も視察した。両医療機関は中国の中核施設として発展しているが、西洋医学に加え、中国漢方や鍼灸、太極拳など伝統医学の活用も行っている。

私は参議院議員になる前に、約 20 年間脳神経外科医として脳卒中患者や頭部外傷患者等のリハビリテーションにも関わってきたが、母校の東北大学には当時、鳴子に温泉医学研究所と温泉病院があり、患者さんの病状や求めに応じてリハビリテーションを依頼していた。温泉療法は診療報酬の面では、それ単独では評価されておらず残念である。私は、温泉や美しい森など自然の恵みを生かした癒しの効果も重視し、森林セラピーの推進にも携わっている。

日本は、高齢化が急速に進んでおり、高齢者等の病状ならびに希望にそった療養、健康増進のサービスの必要性が増している。また、患者さんも、多様な選択肢と情報を求め、自らの希望に従って選ぶ傾向が強まっている。

そのような中、世界的に西洋近代医学と伝統医学や相補・代替医療を融合し、患者の視点に立った全人的医療をめざす“統合医療（Integrative Medicine）”を創造する流れが形成されてきた。それを受け、私が所属する公明党では、2004 年に厚生労働部会に「統合医療検討ワーキングチーム」を設置し、座長の私は、渥美和彦日本統合医療学会代表（当時）などから今日の研究状況についてうかがい、関連する政策の実現や予算獲得に努めてきた。また、渥美先生が主導する“統合医療を実現する会”の政治分野の分科会にも、私を含め公明党国会議員の有志が参加している。

今や、“統合医療”は世界の保健、医療の大きな流れとなり、今後の大いなる発展が期待されている。歴史的に東洋医学や近代西洋医学の発展に寄与してきた我が国は統合医療の発展に関しても世界のリーダーとしての役割を担うべきであり、そのために力を尽くしていきたい。

“統合医療を実現する”学術連合より厚労省に提言

去る８月26日、27日と、渥美理事長は学術連合を代表して、厚生労働省の副大臣に就任した、鴨下一郎氏、および渡辺孝男氏に会い、“統合医療を実現する”学術連合を代表して、要望書を提出した。その内容は、下記の通りである。

最近、諸外国でも、政府が中心となって、医療政策の一つとして、“統合医療”をすすめており、大学、病院などに統合医療学科が併設され、国立統合医療センターが設立されている。

そもそも、統合医療とは、西洋医学を中心として、伝統医学や代替医療を統合して、患者中心に全人的医療を行うものである。その結果として、

１）安心、安全の医療を提供し、患者の多様な選択を可能にする。

２）治療のみならず、予防、健康に重点を置く。

３）医療費の節減をはかる。

このような世界状況のなかで、わが国においても統合医療に関する国家計画、およびセンターの存在が問われている。

わが国においても、約７年前より、統合医療の実現を推進する“学術連合”、“議員連合（超党派）”、“文化人、企業の連合”、さらに、最近、“市民会議”が結成され、四位一体で推進する体制が整いつつある。

尚、最近、“健康食品に関する議員連盟”が発足した。

推進の具体案として、

１）統合医療センターの設立
（データ収入、問題分析、政策立案、国際支援）

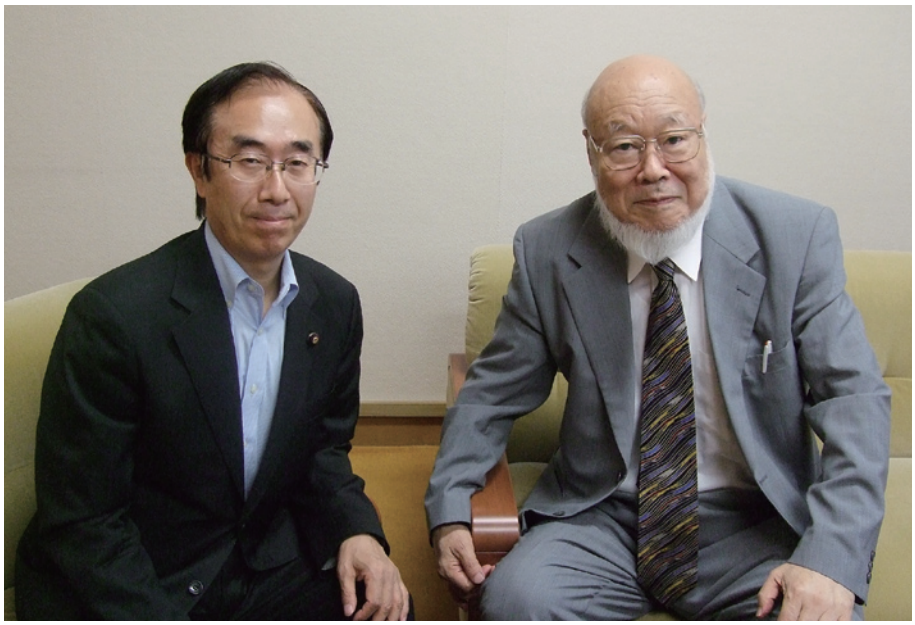
２）統合医療大学・講座の設立
（人材の育成、教育、研究の推進）

３）医療特区における統合医療のフィジビリスタディ
（統合医療の安全性、有効性、経済効果などの検討）

４）新産業の育成（経産省と連携）
（健康食品、健康機具など、予防健康の産業）

などを提案した。

尚、政府の中に、“統合医療調査委員会”を発足させ、関連議員連盟の連携を要望した。



渡辺孝男厚生労働副大臣と渥美理事長（2008年８月27日）